

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400516		
法人名	有限会社 アイ		
事業所名	グループホーム アイケアホーム		
所在地	広島県福山市神辺町東中条1177-2		
自己評価作成日	平成26年9月24日	評価結果市町村受理日	平成26年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県平成台27-17-101		
訪問調査日	平成26年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と池に囲まれ、静かでのどかな場所にあり、春はリビングから桜を眺めることができます。またカモやカメが泳いでいる姿や四季折々の景色を楽しむことができます。当施設は9名の入居者の方達と家庭的な雰囲気の中、個人の状態に合わせて生活できるよう支援につとめ、ボランティアの方による活動や行事などで季節や楽しみをとりいれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市郊外で自然に恵まれた場所にあり、職員全体で決めた理念「笑顔の絶えないホーム作り」等(三つの笑顔)を掲げ実践している。お祭りや小学校の運動会などの地域行事には積極的に参加しており、また、事業所主催の「タベの集い」では、家族や地域の方々を招き、交流に努めている。ボランティアの訪問も頻繁で協力を得ている。職員同士のコミュニケーションがはかれ、特に管理者・ケアマネジャー・介護主任の考え方・方向性が一致しており、利用者への細やかな対応が出来る。利用者が自力で食べやすいように机や足置き・スプーン等を工夫し、行事の時にはソフト食を取り入れるなど、利用者の立場に立った支援を真摯に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い理念を考え、目に入る位置に理念を掲示し、意識づけをしている。	理念に基づいて業務を進めるために職員全体で話し合い、新しい理念を作成した。「笑顔の絶えないホーム作り」等【三つの笑顔】を掲げ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加できるよう取り組んでいる。	お祭りや小学校の運動会の見学等地域行事に参加している。「タベの会」など事業所主催の行事に地域の方々を招き、交流している。ボランティアの訪問も頻繁で毎月一緒に歌を歌うなどの協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事等は誰でも気軽に立ち寄れるよう案内する。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催し、近況報告をし参加された方々から意見を頂いている。	2ヶ月に一度運営推進会議を開催している。市の職員や包括支援センター、民生委員、家族などが出席し、情報交換にとどまらず率直な意見が出され、地域の方々の情報を基に行事に参加するきっかけになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで近況報告、行事の案内などを行っている。	運営推進会議に市の担当者や包括支援センター職員が出席している。困難事例や分からないことがある場合には随時支所に出向いて指導を仰ぎ協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修に参加し会議の場などで報告、勉強会をおこなっている。日中は開錠している。	職員は外部研修で学んだことを全職員に伝え「玄関の施錠を含めて身体拘束を行わないケア」に取り組んでいる。職員は見守りを重視し、利用者に寄り添い声かけを工夫して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し虐待防止の内容について理解を深め、閉ざされた環境にならないよう取り組んでいる。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、その資料を基に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には必ず本人とご家族と面談し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱・相談窓口の設置をしている。ご家族来訪時は近況報告をし、ご家族からの意見も聞くようにしている。	職員は家族の訪問時に積極的に話しかけたり、日ごろの様子を手紙で伝える等信頼関係の構築に努めている。その為、家族の訪問は頻繁で、意見や要望は職員に直接伝えることが多い。出された意見は検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時職員からの意見や提案を聞けるよう努めている。	管理者は日常の業務や昼食時の会話や申し送り、会議等で職員に率直な発言を求め、出された意見は検討し改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善していけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を作るようにしている。新人職員には個々に指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・ネットワーク会議・他施設の行事などに参加し交流の機会を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にある程度の人間関係が築けるよう本人に面会し、要望等の訴えを傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にある程度の人間関係が築けるよう家族とも面談し、要望等の訴えを傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテイクの際に施設入居以外のサービス利用が適応であれば、その都度対応している。本人、家族の思いを大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方ができることは積極的にしていただき、職員も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が絶えないよう、連絡・相談を行い、ご家族と共にご本人を支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や地域の方などどなたでも気軽に来所できる雰囲気作りをこころがけている。電話・手紙などでの連絡の支援を行っている。	利用者の多くが地域住民のため小学校の運動会などの行事を通して慣れ親しんだ方々と出会い交流を深めている。また、お盆などには親戚や友人の来訪が多く、馴染みの人や場との関係継続の支援に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時は職員が間に入って会話し利用者同士が関われるようにしたり、レクや活動の声かけをしている。孤立しない席の配置をその都度検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の案内や、必要に応じて相談できる体制で支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で本人の希望や困っていることを把握し、必要があればカンファレンスを行っている。	職員は日々のかかわりの中で声かけを行い日常の記録や申し送り、昼食時の情報交換、月一回の会議等により常に利用者の思いや意向の把握に努め、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテイク時の情報収集だけでなく、入居後も家族や本人より日常生活上で情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、日頃の状態観察に努め、職員同士連携し、精神状態の観察にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まず本人・家族の意向を伺い、職員会議、カンファレンスを行っている。	担当者が計画の原案を作成し、それを基に本人や家族の意見を求め職員会議でアイデアを出し合って情報を共有している。モニタリングを重ね、利用者の状態に合わせた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子、状態を個別で記録に残し、申し送りをを行い情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が情報を共有し、アイデアを出し合いサービスを提供できるようにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による演奏会、踊りの鑑賞会などを行い、生活の中に楽しみを作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得したかかりつけ医との連携をとっている。	本人・家族が希望する主治医への受診支援を行い、家族に協力を仰ぐこともある。緊急時には電話で医師から指示を受けるなど、連携が取れ適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問時に状態報告をし、必要な指示を仰いでいる。24時間電話連絡ができる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と連携をとり、退院に向けた支援ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の指針を契約時に家族に説明している。必要があればその都度家族と話し合えるようにしている。	重度化や終末期については、利用者の状態に応じて、家族・主治医・看護師を交えて話し合い方針を共有して取り組んでいる。ターミナルケアの研修や勉強会を通じて職員の意識統一を図っており、訪問看護との連携も取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。必要時は病院・看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、消火器の使い方や避難経路の確認を行っている。	年2回夜間を想定するなどして消防訓練を実施している。	運営推進会議等で災害について話をするとともに、近隣住民に参加の呼びかけを行い、地域と連携して消防訓練を実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の外部研修に参加し会議で内部研修を行い声掛けについて職員で話し合っている。	利用者一人ひとりに配慮した言葉かけを行い、職員間で注意し合っている。日々の生活の中で利用者同士が仲良く過ごせるように、各々の誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を聞いて行動できるように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースで支援しており、職員の都合で行動を優先することがないようこころがけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その都度整髪・爪切り・更衣などの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせた食事を提供している。ほぼ職員が手作りしているがソフト食を取り入れるなどし、食事が楽しめるようにしている。	利用者の状態に応じて持ち手の太いスプーンに変えている。食事を食べやすく楽しみなものとなるようソフト食の取り入れや利用者に合わせて机の高さや足置きを作るなどの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量が不足気味の方は主治医と相談し栄養補助食等の対応をしている。体調に合わせた食事を提供できるようこころがけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には職員が付き添い口腔ケアの確認を行っている。義歯の方は夜間はポリデントにつけている。歯科往診で口腔衛生について指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンがわかるよう記録し、トイレ誘導、自立支援に生かしている。	排泄のパターンを把握しトイレ誘導をしている。自立の人には見守りを行い、利用者に合わせて支援をしている。夜間も状況に応じて個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い、水分補給や食事で便秘を予防している。必要時は医師の指示で薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせた入浴を支援し、必要時は清拭・更衣を行っている。	おおむね週2日、日中での入浴となっているが、利用者の要望や体調等を考慮してできる限り個々に沿った支援をしている。嫌がる方には時間や声掛け等を工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを把握しながら本人の希望を聞いて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状をまとめたファイルを全職員がわかる場所に置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に合わせて、体操・制作活動などを行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩・ドライブ・花見など外出の機会を作っている。ご家族の協力で外出される方もいる。	日頃から散歩や地域行事(福祉祭り・運動会等)には積極的に出かけている。季節の花々(桜・アジサイ・ひまわり等)を見に出かけたり、利用者の楽しみを考慮して希望に合わせた支援を行っている。また家族の協力により出かけられる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば個人で金銭を管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる空間作り、過ごしやすい温度調整をこころがけている。	静かで日当たりのよいリビングに、不快な空気のよどみもなく、それぞれ利用者が寛がれている。季節の草花や飾り付けがなされており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席の配慮をしたり、個人に合った活動の声掛けなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具を利用していただいている。	利用者の使い慣れたものが持ち込まれ、家族や孫などの写真が飾られており、落ち着いた過ごせるよう工夫された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物外部からバリアフリー。手すりの設置。		